

歴史文化学科 カリキュラムマップ(2024年度入学生)

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)												
歴史学概論	講義	1	2	古代から現代までの歴史家を取り上げて、その歴史認識の手法を紹介し、歴史学の展開・発展について学ぶ。	「歴史とは何か」との問いを理解し、歴史へのアプローチの変遷について概観を得て、歴史を学ぶ意義を身につける。	◎						
考古学概論	講義	1	2	欧米の考古学と日本の考古学の両方を視野に入れ、考古学とはどのような学問かを学ぶ。	考古学という学問分野の発達の歴史が理解できるようになる。考古学の基本的枠組みや、概念、理論、方法、用語、考え方について、実例に即して理解し、説明できるようになる。	◎						
民俗学概論	講義	1	2	民俗学とは、身近な事柄から日常を問い直し、これからの生活や社会・文化のあり方について考えていく学問である。この授業では、これまでの研究の蓄積を踏まえるとともに、近年における国内外の新たな研究動向にも目を配りつつ学習する。	民俗学の考え方や研究対象・研究成果を理解し説明できるようになる。具体的な事例に対し、民俗学的なアプローチから考え、説明できる。	◎						
歴史文化基礎演習	演習	1	2	歴史学・考古学・民俗学の各分野を対象に、文献の読み方(内容のまとめ方)、史料の読み方などについて、基礎的なトレーニングを行う。	歴史文化学科生として学生生活をスタートするにあたり、歴史学・考古学・民俗学に必要な基礎的な力が身につく。				◎	◎		
日本史要説	講義	1	2	世界史との比較や、政治史以外の側面にも焦点を当てつつ、日本の歴史の展開や、日本社会の成り立ちを多角的に検討する。	日本社会の特色を知り、その多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことを理解する。	◎						
東洋史要説	講義	1	2	東アジア世界の成立というテーマに即して、東アジア各地の国や地域が全体として結びつきを深め、一体となって動いていく様子を理解できるようにすることを図る。	東アジア史の基礎知識を身につけ、通史的な概観を得る。	◎						
西洋史要説	講義	1	2	高等学校の歴史の授業で、イギリスの歴史については断片的に紹介されることはあっても、それを西洋史の枠内で通史的に説明することは少ない。そこで本講義では、16世紀から20世紀までのイギリスを中心とした西洋史を概観し、現在のイギリスを中心とした西洋社会の状況を歴史的に理解するための材料を提供する。	知識:近現代イギリス史を中心とした西洋史について基本的な知識を身につけることができる。 態度:西洋史を理解するための資料収集に積極的に取り組む姿勢を持つことができる。 技能:近現代イギリス史を軸とした西洋史について説明することができる。	◎						
日本考古学要説	講義	1	2	日本考古学の発達の歴史と研究の現状を概観し、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代などの各時代の考古学について、個別トピックに即しながら、知識を深めてゆく。	日本考古学は、日本列島に展開した人間の営みの歴史を物質的な観点から研究する学問であることを理解し、用語を扱えるようになる。授業を通して、日本考古学がどのような形で展開し、何がどこまで明らかになっているのかを理解し、説明できるようになる。	◎						
日本民俗学要説	講義	1	2	日本の民俗学は、柳田国男を中心に体系化された理論的枠組みや方法論を持ち、今日まで発展してきた学問である。本講義では、初期の民俗学が志向した学問的問いから、今日の民俗学が抱える課題まで、通時的に概観することを目指す。また、フィールドワークや聞き書きといった、民俗学が得意としてきた方法論についてもその特徴と課題について講義する。	主要な民俗学者について、その研究の特色や学史上の位置付けを理解し説明できるようになる。民俗学の草創期から現代に至るまでの民俗学の学史を理解し説明できるようになる。民俗学の主要な方法論や資料論について、理解し説明できるようになる。	◎						
くずし字入門	講義	1	2	この授業ではくずし字の基本を学ぶ。具体的には、近世文書とはどういうものかを知ると同時に、米・銀などの単位、あるいは年月日の読みを知る。考古学・民俗学であっても史料に書かれたくずし字を読むスキルが求められることがあり、人名・年号・干支・数字といった初歩的な読み方のトレーニングを行う。	平易な史料の写真版のコピーを読み、くずし字に慣れるとともに、年号、干支、単位、あるいは頻出する用語を知り、身につける。	◎						
人文地理学概論	講義	1・2	2	本授業では、イギリスを事例として地理学に関する一般的な知識について学び、地理学の理論と地理学の考え方に基いて、社会をいかに分析するか、その分析の方法を概説する。それにより、地理的な見方・考え方を習得し、特に中等高等学校における地理学を教える能力を身につける。	1.人文地理学の基礎知識を説明できる。 2.人文地理学の研究方法を理解できる。 3.人文地理学の見方・考え方に基いて、みずから研究する能力を習得できる。	◎						
自然地理学概論	講義	1・2	2	水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「河川学・陸水学・海洋学」に関する基礎的事項について学習する。また、関連する身近な自然環境で生ずる様々な現象についての原理や法則などについても学習する。	1.自然地理学分野に関する諸現象の基礎的理解を身につける。 2.中学・高等学校で自然地理学分野を取り扱う際に必要な知識を習得する。	◎						

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
地誌	講義	1・2	2	地誌は「諸学の母」としての性格を有しており、文学、歴史学、考古学、民俗学等あらゆる学問の研究入門となり得る。本授業では日本の地誌、および地図編纂の歴史を、古代から現代までを対象として概観し、地域がどのように認識されてきたのかを学ぶ。	日本の地誌、および地図編纂の歴史について基本的な知識を身につける。それらの具体的記述・描写をとおして、地域がいかに認識されてきたのかを理解する。身近な地域を題材として、地誌的観点から特徴を表現することができる。	◎					
美術史	講義	1・2	2	古来、日本では、中国伝来品を「唐物」(舶来品の異名ともなる)として尊んできた。現在の日本の博物館・美術館施設においても、中国古美術品は東洋古美術作品のなかで、かなりの割合を占める。中国各時代に生まれた美術品にある優れた技術・表現力とその影響を、様々な美術や文化、特に日本美術のなかにみえていきたい。	中国各時代の美術品の影響を様々な美術や文化、特に日本美術のなかに見いだすことができる。日本人が受け継いできた文化や美的感覚が中国美術に影響を受けつつ、長い美的創造の歴史をつくってきたことを、実感し、洞察することができる。	◎					
文化財行政学	講義	2・3	2	制度として百年以上の歴史をもつ文化財保護行政のあゆみを学ぶとともに、文化財の専門職をめざす場合にも適応できる文化財の保護や活用に対する考え方や、基本的な知識を習得する。近年、文化財保護法が扱う文化財の幅が広がり、多様な文化財の保護と活用が課題になっていることを理解する。	日本における文化財保護の仕組みと特徴を学び、政策として行われている国や地方の文化財保護政策の実際や課題について理解することを目的とする。卒業後、文化財の専門職をめざす場合にも、適応できる文化財保護や活用に対する考え方や、基本的な知識を習得する。		◎	◎			
文化財科学・保存科学	講義	2・3	2	文化財の保存科学を主題とし、埋蔵文化財を中心として、保存処理の方法論の解説と実例を紹介し、保存処理の考え方や原理に関する理解を得る。また、考古学研究における自然科学分析の活用を主題とし、主要な自然科学分析の原理を解説しながら、実際の研究事例を紹介する。考古学的課題の解決にむけて、多角的なアプローチを策定できる基礎知識を得る。	1.文化財の保存科学と自然科学分析の基礎を学び、考古学等の研究にどのように生かされてきたか理解できる。 2.それらが、今後どのように生かせるかについて見通しを持つことができる。			◎	◎		
大和の文化遺産を学ぶ1	講義	2・3	2	奈良県(大和国)の文化遺産に焦点をあて、具体的に分析することにより、奈良県の特徴を学ぶ。文化遺産の意義を理解し、文化遺産を取り巻く課題について学ぶ。	奈良県における中世史の基本的な流れについて知り、説明できる。文化遺産の意義について、習得する。奈良県の文化遺産の特徴について学び、1つ以上あげて解説できるようになる。	◎					
大和の文化遺産を学ぶ2	講義	2・3	2	図表・写真・DVDなどを使いながら、奈良県およびその周辺地域にある文化遺産(神社・古墳・古墳・仏像・建築・遺跡・地名など)の代表的なものについて、歴史学の立場から分かりやすく解説していく。	1.代表的な大和の文化遺産について、300字で説明できるようになる。 2.文化遺産を見学していく時の注目点について説明できるようになる。 3.日本全体の文化や京都の文化と比較の下、大和の文化遺産の長所・短所や保存・活用・観光化について説明できるようになる。	◎					
大和の文化遺産を学ぶ3	講義	2・3	2	奈良県内にある文化遺産について、考古学的な観点から学ぶ。また、文化遺産が持つ現代的な意義と課題についても理解を深める。	天理大学の立地する大和は古代国家発祥の地であり、古墳時代以降は列島の都があった場所である。歴史的環境に恵まれた土地柄を活かし、身近にある文化遺産の意義について理解できるようになる。	◎					
博物館学概論	講義	2・3	2	博物館学の概要と博物館の定義、現状、歴史など、博物館についての基礎的な知識について、長年博物館学芸員として博物館に携わってきた経験をもとに、具体的に講義する。初学者が受講することを前提に、長年の博物館学芸員としての実践的な経験を活かし、具体的な事例から理念・定義に至る説明を行う。随時、映像資料などを使って事例を学び、理解を深める。	博物館学の目的・方法・構成・学史がわかる。専門的な博物館学の各論に進む前提として、博物館の定義、理念、制度、現状、歴史がわかる。展覧会だけでなく、施設・運営の観点でも博物館が評価できる。					◎	◎
博物館学経営総論	講義	2・3	2	博物館経営の特性を学んだ後、その基盤について、建築・施設・設備といった具体的なトピックを導入とし、組織・行財政・財務について理解する。ついで、博物館の内外での連携活動を学ぶ。特に、生涯学習の観点も参照しながら、市民参画や地域社会との連携を理解する。さらに、博物館の管理運営と評価について、危機管理、博物館倫理、利用者、使命と評価といった課題を学ぶ。長年の博物館学芸員としての実践的な経験を活かし、事例を提示しつつ授業を進める。	博物館の形態と活動の両面に關し、適切な管理・運営の理念と実態がわかる。博物館の運営に関わる施設・設備と組織のあたりがわかる。市民や地域社会、諸施設との連携の実践例と課題がわかる。展覧会だけでなく、施設・運営の観点でも博物館を評価できるようになる。					◎	◎
博物館教育論	講義	2・3	2	博物館教育の意義や理念を修得し、博物館活動としての展示、研究、調査などの具体的な実践活動を学び、教育機関としての博物館の役割を総合的に理解する。授業担当者が大学附属博物館(天理参考館)の学芸員であるリットを生かし、博物館見学やワークショップの実践などを通して、現場が直面している教育的課題を具体的に紹介する。また、各地の博物館が取り組んでいる様々な活動例を提示し、実践的な知識を深める。	博物館で学芸員として業務を行う上での様々な教育的課題について、理論や実践に関する知識と方法を習得し、基礎的な能力を養う。それぞれの博物館が取り組んでいる先進的、あるいは特色のある実践例を学び、今後ますます教育機関としての重要性が高まる博物館の役割を理解する。自らのアイディアを具体化し、実現可能なかたちに創り上げるスキルを向上させる。					◎	◎
博物館情報・メディア論	講義	2・3	2	博物館は、資料のもつ情報を来館者に的確に伝達するため、題箋やパネル等、様々なメディアを活用する必要がある。近年では、デジタル化の進展にともない、デジタルアーカイブの活用やWEB上での博物館情報の公開・活用が促進される等、博物館情報の活用はあらたな段階に移りつつある。本講義ではそういった現状を踏まえ、博物館学勤務経験のある授業担当者の経験をもとに、博物館における情報の意義や具体的な内容、メディアの活用方法等について学ぶ。	博物館における情報の種類とそれぞれの有効性を理解できる。博物館の種類、展示や解説、イベント等個別のケースにおいて、根拠をもって各種メディアを運用できるようになる。					◎	◎

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)									
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
博物館展示論	講義	3・4	2	博物館における展示の役割を考え、その歴史を解説する。次いで工芸品や考古資料といった資料の種類ごとに展示の技術を学び、特徴的な博物館展示の実践例を学ぶ。最後に附属天理参考館の展示をもとにして、展示計画を作成する。これらを長年の博物館学芸員としての実践的な経験をもとに解説する。	博物館展示は、博物館活動の「オモテ」の部分である。博物館が行う資料の収集・保存・調査研究の成果を展示でいかに表現するかについては、理論と技術の両面を備える必要がある。そのために本講義では以下を到達目標とする。 1. 博物館展示の歴史を理解する 2. 資料の種類ごと展示の技術を理解する 3. 特徴的な博物館展示の具体例を理解する					◎	◎
博物館資料論	講義	3・4	2	博物館資料の取り扱いや調査の例を通じて、収集・保存・整理・展示・公開・活用など、資料に対して行われる基本的な博物館活動の知識と技術を学ぶ。また、調査研究活動の意義と方法について理解を深める。	1.博物館資料の収集や整理保管、保存・展示に関する知識や技術を習得する。 2.博物館資料の調査研究活動について、理念・目的・方法・実際を理解する。					◎	
博物館資料保存論	講義	3・4	2	博物館資料を適切に保存する意義を論じ、具体的な資料保存・保全の方法を学ぶ。また、展示と収蔵という、資料保全の観点からは相反する業務を円滑に進めるために必要となる、適切な博物館環境の整備・管理に関する知識を学ぶ。そのうえで、自然環境、歴史的環境、景観等の自然・文化資源の有効活用により博物館が果たす役割について学ぶ。	1.博物館および博物館相当施設における、展示・収蔵それぞれの適切な資料保全環境等の諸条件を科学的に捉えることができる。 2.展示と収蔵を円滑に行なっていくつ、資料を良好な状態で保存してゆくための基礎知識を習得することができる。 3.資料の保全全般に関する基礎的能力を養うことができる。				◎		
社会科指導法1	講義	3	2	中学校学習指導要領「社会」における目標と内容構成について解説する。また、中学校における授業の実際について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、社会科の授業をデザインするための基本について考察する。	社会科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解する。また、中学校教員として必要な資質・能力の基礎を培う。					◎	
社会科指導法2	講義	3	2	社会科教育の目標・内容及び授業構成の基本原則について解説する。中学校における授業の実際について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	社会科の目標・内容及び授業構成の基本原則を理解する。中学校の現場で行われている授業の実際について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察でき、教授・学習の在り方、社会認識形成と公的資質の関係について捉えることができる。社会科教育の実践力の基礎を培う。					◎	
社会・地理歴史科指導法1	講義	3	2	高等学校学習指導要領「地理歴史科」における目標と内容構成について解説する。また、高等学校における授業の実際について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、地理歴史科の授業をデザインするための基本について考察する。	地理歴史科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解する。また、高等学校教員として必要な資質・能力の基礎を培う。					◎	
社会・地理歴史科指導法2	講義	3	2	地理歴史科教育の目標・内容及び授業構成の基本原則について解説する。高等学校における授業の実際について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	地理歴史科の目標・内容及び授業構成の基本原則を理解する。高等学校の現場で行われている授業の実際について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察でき、教授・学習の在り方、社会認識形成と公的資質の関係について捉えることができる。地理歴史科教育の実践力の基礎を培う。					◎	
英語文献講読1	演習	3	2	英語による研究書の講読を通じて、歴史学・考古学・民俗学の学術論文・報告書を正しく読み解くために必要な語彙・文法・構文の知識の獲得を目指す。大学院入試レベルの平易な英文による研究書をえらび、予読を前提として順に発表する。	英語による研究書の講読を通じて、歴史学・考古学・民俗学の学術論文・報告書を正しく読み解くために必要な語彙・文法・構文の知識の獲得を目指す。			◎			
英語文献講読2	演習	3	2	専門的かつ抽象的な内容の英文による研究書をえらび、予読を前提として順に発表してもらう。これに文型・構文の捉え方、背景の知識に関する発展的な解説を加えることで、独力で学術英語を読解してゆくに足る実践力を養う。	英語による研究書の講読を通じて、歴史学・考古学・民俗学の学術論文・報告書を正しく読み解く実践的な読解力の獲得を目指す。			◎			
卒業論文		4	6	担当教員の指導の下に、在学中の学習・研究の成果を総合的にまとめ、卒業論文を作成する。完成した論文に対して、口頭試問を行なう。	1.歴史学・考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.史資料を調査・収集・読解・分析・理解することができる。 3.論理的な文章を構想し、発想を適切に表現し伝達できる。 4.研究成果を発表し、社会に問う経験を通して、自らの資質・能力・適性を理解し、自身の役割を考えることができる。					◎	◎
歴史学研究入門1	演習	2	2	歴史学の個別分野に関する概説書をテキストとして選び、各学生がそれぞれ分担当して輪読し、内容の紹介とコメントを報告する。	専門分野に関する基礎的文献を読みこなし、自ら知識を身につけられるようになる。				◎	◎	
歴史学研究入門2	演習	2	2	前半は日本史の論文を一つ選定して報告してもらい、その内容をめぐって討論する。後半は奈良の歴史についてテーマを決めて調べた結果を報告し、その内容について討論する。	歴史学の研究方法や研究動向についての理解を深め、論文の読解力を高めるとともに、研究課題を見出し調査し発表する能力が身につく。				◎	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。											
	①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
文化交流史の研究1	講義	2・3	2	ユーラシア大陸の東西を結ぶ交通と交易の発展を概観し、それが東アジア世界に与えた影響について学べるようにする。	一国の中で閉じた歴史ではなく、複数の国や地域を含む広い領域内の歴史の動きを捉える。		◎	◎				
文化交流史の研究2	講義	2・3	2	日本の近代化過程において、明治政府が、欧米の先進文化を急速に移入するために、各分野・部門にわたり指導者ないし教師として雇った外国人である「お雇い外国人」の業績を手がかりに、幕末から明治半ばにかけての日本における、西洋建築、西洋美術の受容についておおよその知識を得る。	・真の国際理解には自文化の理解と尊重が前提になっていることを理解する。 ・反面、自文化の理解が独りよがりになり、客観性を欠いている場合もあることを認識する。 ・外国の文化が自文化をより豊かにする可能性に気づく。 ・異文化交流の困難と可能性について自分なりの考えを持てるようになる。		◎	◎				
日本古代史の研究	講義	2・3	2	DVDや図表などを使いながら、日本古代史(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の概略を分かりやすく説明していくと共に、最近の日本古代史の研究動向や研究方法なども解説していく。	日本古代史の概略と最新の研究動向を理解する。		◎	◎				
日本中世史の研究	講義	2・3	2	室町・戦国社会の成立・展開について、畿内社会に焦点を当て、他地域と対比しながら、武家・寺社権力を中心に検討する。	日本中世社会の特色を知り、その多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことを理解する。		◎	◎				
日本近世史の研究	講義	2・3	2	高校までに獲得した日本史の知識を再確認するとともに、教科書などの記述の根拠となった史料を読みながら、近世史研究の基本と、理解の掘り下げをめざす。	1.武家諸法度・禁中並公家諸法度などの各種法令、基礎史料の条文が理解できる。 2.検地帳・家数人数改帳などから基礎計算、系図の作成ができる。 3.それぞれの時代・テーマに即した研究史が把握できる。		◎	◎				
日本近代史の研究	講義	2・3	2	日本近代(明治～昭和期)の歴史認識・叙述について、神話・偽史・英雄伝・旧藩顕彰といった様々な視点から考察し、(地域)社会との関係の諸相について学ぶ。	日本近代において種々展開された歴史叙述を真偽ともに再検討することにより、現在へつながる課題に対し、自分で回答できるようになる。		◎	◎				
東アジア史の研究	講義	2・3	2	15～17世紀の東アジア世界の政治的・経済的変動について学び、東アジア全体の歴史的動向を考察する。	東アジア史に関する専門的知識を深め、日本の歴史を東アジア史の中に位置づけて理解する。		◎	◎				
古文書学	講義	2・3	2	古代・中世の古文書学の基本である様式論を中心としながら、機能論についても言及する。	文献史学の基本史料である古文書についての基本知識が身につくとともに、それを通じた古代中世の政治や社会の概要を理解できる。			◎	◎			
日本古代史料の講読1	演習	2・3	2	日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方をわかりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。	史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できる。			◎	◎			
日本古代史料の講読2	演習	2・3	2	日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方をわかりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。	史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できる。			◎	◎			
日本中世史料の講読1	演習	2・3	2	鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。	日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになる。			◎	◎			
日本中世史料の講読2	演習	2・3	2	戦国時代の武家の発給文書をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。	日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになる。			◎	◎			
日本近世史料の講読1	演習	2・3	2	近世の史料集を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。	日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深める。			◎	◎			
日本近世史料の講読2	演習	2・3	2	「公事裁許扣帳」(『藤堂藩大和山城奉行記録』)を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。	日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深める。			◎	◎			

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要							
						①	②	③	④	⑤	⑥		
日本近代史料の講読1	演習	2・3	2	明治5年に創刊された新聞『日新新聞』を会読する。史料を読み解くことにより、当該期の政治・経済・社会・文化などについての基礎知識を得る。	日本近代史料で用いられている用語・用字など、史料を読解するための基礎となる力を身につけるとともに、史料の背景にある問題についてもあわせて指摘できるようにする。			◎	◎				
日本近代史料の講読2	演習	2・3	2	明治5年に創刊された新聞『日新新聞』を会読する。史料を読み解くことにより、当該期の政治・経済・社会・文化などについての基礎知識を得る。	日本近代史料で用いられている用語・用字など、史料を読解するための基礎となる力を身につけるとともに、史料の背景にある問題についてもあわせて指摘できるようにする。			◎	◎				
歴史学実習1	実習	2	1	近世史料の写真版のコピーを読み進め、取り上げる史料の難易度を徐々に引き上げながら、くずし字を読む力を高めるとともに、史料の内容も理解できるよう、トレーニングを重ねる。	近世のくずし字を読む力をさらに高めるとともに、史料の内容についての理解も深める。			◎	◎				
歴史学実習2	実習	2	1	地域の近代史料(写真版のコピー)を読み進め、史料の読解力を高める。また、史料の現物に接する機会も設ける。	史料の読解力を高めるとともに、史料が書かれた時代についての理解を深める。			◎	◎				
歴史学実習3	実習	3	1	図書館所有の未整理史料を将来の公開に向けた準備の一環として整理する。整理に当たっては、文書を掃除をしたのち、手順に従って調査を作成するなど、一連の手順が定められている。それに従い、丁寧に作業する。	天理図書館所蔵史料を用い、史料整理の実験を経験する。古文書の読みのスキルを向上させ、古文書の取り扱い方を知り、整理の基礎を学ぶことを目的とする。			◎	◎				
歴史学実習4	実習	3	1	図書館所有の未整理史料を将来の公開に向けた準備の一環として整理する。整理に当たっては、文書を掃除をしたのち、手順に従って調査を作成するなど、一連の手順が定められている。それに従い、丁寧に作業する。	天理図書館所蔵史料を用い、史料整理の実験を経験する。古文書の読みのスキルを向上させ、古文書の取り扱い方を知り、整理の基礎を学ぶことを目的とする。			◎	◎				
日本古代中世史演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、日本古代中世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、『日本の時代史』『岩波講座日本歴史』などから、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎			
日本古代中世史演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本古代中世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎			
日本古代中世史演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、日本古代中世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、『日本の時代史』『岩波講座日本歴史』などから、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎			
日本古代中世史演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本古代中世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎			
日本近世史演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、日本近世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎			

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)									
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
日本近世史演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近世史演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、日本近世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近世史演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近代史演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、日本近代史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近代史演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近代史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近代史演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本近代史に関する研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
日本近代史演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自の研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
考古学研究入門1	演習	2	2	考古学に関わるテーマを見いだす手がかりとして、附属天理参考館に展示されている考古資料について、教員のアドバイスを受けて受講生各自が課題を設定し、観察と初歩的な研究を行う。各自が設定した課題について、それぞれ文献収集、情報収集を行いながら研究を進め、研究成果をまとめたプレゼンテーションをおこなう。またディスカッションを通して、発表者を含め、受講生全員が考古学に関する理解を深める。	情報ライブラリー・図書館等の利用法、関連資料の収集法、レジュメ・資料の作成法、プレゼンテーションの方法などを実践的に学び実践することができるようになる。				○	○	
考古学研究入門2	演習	2	2	フィールドワークははさんで、前半と後半に分ける。前半は、フィールドワークの準備として資料集を作成する。調査報告書など学術的な文献にあたり、必要な情報を抜き出しまとめ、フィールドワークに活かす力を養う。後半では、考古学の学術的な文献の読解に取り組み、順にプレゼンテーションする。	考古学の基礎的手法を習得し、プレゼンテーションや、文献リストの作成を通して、学術活動の基礎を学ぶ。				○	○	
旧石器・縄文時代の考古学	講義	2・3	2	旧石器時代と縄文時代の研究史を整理し、遺構や遺物などに則した具体的な考古資料の分析や操作による研究方法と成果を講義する。	1.旧石器時代から縄文時代にいたる文化の特徴および文物の消長の理解を通し、人類の歩みが習得できる。 2.先史時代研究に欠かせない研究対象資料の、型式学的理解への前提的知識や技術が身につく。	◎	◎				

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)						
	科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要
							① ② ③ ④ ⑤ ⑥
弥生時代の考古学	講義	2・3	2	弥生時代研究の歴史を追いながら、弥生時代の考古学について理解を深めるとともに、考古学的な観点から、弥生時代とその社会を列島の歴史の中に位置づけることをめざす。	弥生時代について、専門的な知識を得て、自ら説明できるようになる。また、弥生時代の考古学について、具体的な研究の事例を理解し、説明できるようになる。さらに、それを通して、考古学の方法論・理論についても、理解を深め、用語を扱うことができるようになる。	◎ ◎	
古墳時代の考古学	講義	2・3	2	古墳時代の概要の理解に努め、本学周辺の古墳、天理参事館の展示を積極的に利用する。古墳の変遷を通観し、古墳時代を構成する諸要素のうち重要な問題を取り上げて解説する。これらの知見を整理・総合し、当時の社会全体を復元的に理解する。	1.古墳時代についての専門的な知識を獲得できる。 2.資料となる遺跡・遺構・遺物や専門用語を理解できる。 3.古墳時代の全体像が理解できる。 4.日本考古学(日本史)における古墳時代の位置づけ、東アジア世界における古墳時代の位置づけを考察する基礎が身につく。	◎ ◎	
飛鳥・奈良時代の考古学	講義	2・3	2	日本という国家が成立する時代である飛鳥時代・奈良時代を理解するための考古学的課題について、基礎知識を得る。それぞれの時代について、寺院、都城、瓦の生産と流通、土器の生産と流通、金属生産の各テーマを通じて概観し、時代の流れと特質について、比較しながら理解を深める。	飛鳥時代・奈良時代の資料と時代の全体像が理解できるよう、関連する考古学的課題の基礎知識が身につく。	◎ ◎	
中近世の考古学	講義	2・3	2	「食・住」に重点を置き、「うつわ(器)」について縄紋時代から近世までの「土器」について学習する。また、「集落」について歴史時代のデータを紐解き、「縄文期城郭の成立と発展」と題し日本の中世から近世への過渡期にみられる社会情勢と併せて紹介する。さらに死生観について縄紋時代から近世までの「墓」の事例を紹介し考えたい。	歴史考古学の知識が身につく、その時代の社会を復元する上での考古学的手法が有効性が理解できる。	◎ ◎	
東アジア考古学	講義	2・3	2	東アジアは相当に広い範囲に及び、地域ごとに独自の文化の展開があった。ただし中国で文明がいち早く発展し、以後もその先進性を保ち続ける。周辺地域はさまざまな形で中国と関係し、東アジア世界と言うべき一体性を持つようになる。東アジアを俯瞰できるように、順を追って講義を進める。	1.中国を中心とする東アジア地域の地理的特質・時代区分を学ぶ。 2.中国の考古学を通観し、東アジアにおける先進文化の展開を知る。 3.朝鮮半島や中国北方など中国の周辺地域の考古学を学び、日本を含めた東アジア世界全体の展開を考える。	◎ ◎	
西アジア考古学	講義	2・3	2	前半では西アジア考古学に関する基礎知識を得るとともに、19世紀以来当地の発掘調査を通して発展してきた、都市遺跡や金属生産遺跡、土器に関する調査・研究法を学ぶ。後半ではフェニキア人の活動と変遷に焦点を当て、古代西アジアと地中海における地域間関係の展開を学ぶ。	1.西アジア考古学という広大な分野の地域区分、時期区分を知る。 2.エジプト、パレスチナを中心に、学史上重要な遺跡についての基礎知識と意義を学ぶ。 3.西アジア考古学の発展の歴史を通じて、考古学的調査研究法の基礎知識を得る。 4.西アジアにおける諸勢力の興亡の背景にある相互の影響関係を理解するための基礎知識を得る。	◎ ◎	
遺跡探査学	講義	2・3	2	考古遺跡を対象とした各種の非破壊調査法の概要を述べ、物理探査法の中から、主として地中レーザ探査法、磁気探査法、電気探査法を取り上げ、原理、特徴、得られる成果について解説する。天理大学が保有する探査装置を使用して実際の探査を体験する。	1.文化財探査の各手法の原理と特徴がわかる。 2.実際の探査方法、得られたデータの解析と判読方法が身につく。	◎ ◎	
遺跡の保存と活用	講義	3・4	2	考古学の研究対象である遺跡や遺物は、文化財保護法においては、埋蔵文化財として記録保存がはかられるとともに、重要なものが史跡や有形文化財として保護され、地域資源としての活用が期待される。その現状と課題について学び、自治体等の文化財専門職員の職務について知識を身につける。	1.遺跡や遺物といった考古学的な文化遺産の保存に関わる取り組みや枠組みが理解できる。 2.考古学的な文化遺産の保存と活用をめぐる問題について、事例を通して具体的に理解できる。	◎ ◎	
考古資料の情報化	講義	3・4	2	発掘調査で出土した遺構や遺物が考古学の研究資料として活用されるためには、他の研究者による検証が可能な形で複製や写真撮影等、情報化と公開が必須である。考古学実習等で習得した基礎技術をもとに、実際の発掘出土資料を素材として多量の考古資料の効率的な整理、資料の性質に応じた情報化について、理論と実践の方法を学ぶ。	考古資料の整理の基礎を理論と実践の両面から学び、資料を整理・分析し情報として共有化することができるようになる。	◎ ◎	
考古学実習1	実習	2・3	1	野外調査における主な対象は遺跡と遺構であり、これらの測量・実測の方法を、実践を通じて学ぶ。	1.野外における遺跡調査に必要な知識と技術を習得する。 2.遺跡調査に不可欠な測量機器の扱い方がわかる。 3.それを用いた測量図・実測図が作成できる。		◎ ◎
考古学実習2	実習	2・3	1	野外調査の実践として土層断面図の作成した後、室内での整理・調査を実践する。実際の出土資料(遺物)を用いて、資料の扱い方、観察や記録の仕方、実測・拓本などの基礎的な知識と技術を実践的に学ぶ。野外・室内で作成された測量図・実測図を報告書に掲載するために必要な、図版のレイアウト・製図・版下作成を実践する。	1.野外調査で得た資料の整理・調査に必要な知識と技術を習得する。 2.出土資料(遺物)の実測、調査報告書のための図版作成の知識と方法を修得する。 3.それら実際の研究とのつながりを理解する。		◎ ◎
考古学実習3	実習	2・3	1	「考古学実習1」「考古学実習2」で学んだ考古学の調査研究のための基本技術を、実際の発掘調査で実践する。	1.調査区の設定から発掘作業、埋め戻しまでの発掘調査の方法や進め方が身につく。 2.出土資料の扱い方や記録の方法、事後の作業等が総合的に身につく。		◎ ◎

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
考古学実習4	実習	3	1	「考古学実習」3までに学んだ調査の基本技術を応用し、調査の指導に当たることができる。	1.調査区の設定から発掘作業、埋め戻しまでの発掘調査の方法や進め方が身につく。 2.出土資料の扱い方や記録の方法、事後の作業等が総合的に身につく。				○	○	
先史考古学演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、先史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
先史考古学演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、先史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
先史考古学演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、先史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
先史考古学演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、先史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
原史考古学演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、原史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
原史考古学演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、原史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
原史考古学演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、原史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
原史考古学演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、原史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
歴史考古学演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、歴史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
歴史考古学演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通して特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
歴史考古学演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、歴史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
歴史考古学演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通して特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
民俗学研究入門1	演習	2	2	民俗学の研究分野やテーマを見いだす練習をする。具体的には附属天理参考館の見学や大学周辺での巡見を行い、そこで見られる民俗資料について、観察と初歩的な研究を行う。	民俗資料の実態と存在の様相について理解を深め、関連資料の収集法、レジュメや資料の作成法、プレゼンテーションやディスカッションの方法などを実践的に学ぶ。				○	○	
民俗学研究入門2	演習	2	2	大学付近で民俗学の巡見や観察調査を通じ、事前の文献調査、説明資料の作成といった準備作業を行った。また、民俗学の基本的学術文献の読解に取り組み、理解した内容を各自でプレゼンテーションをする。	発表要旨、文献リストの作成を通して、卒業論文の執筆にむけた学術活動の基礎を学ぶ。				○	○	
民俗学と現代社会	講義	2・3	2	私たちの暮らしにおいても身近な存在であり、日本文化の特徴を考える上でも大変重要である「祭り」をテーマに、日本における祭礼文化の多様性や、そこで演じられる芸能、また祭りの運営や維持に関わる人々やコミュニティについて講義する。	民俗学の祭礼研究および芸能研究に関する、基本的な視座や方法論について理解し、説明することができる。 具体的な事例に対し、民俗学的なアプローチから考え、説明できる。		◎	◎			
生活文化史	講義	2・3	2	附属天理参考館は、異文化の生活習慣や歴史などの知識を深めるために創設された。言語を習得するだけではなく、言葉の背景にある人びとの考えや生活への理解が必要だと考えられたからである。身近な暮らしを考える学問としての民俗学の領域のなかで、普段当たり前と思っていることは本当にそうなのか、海外で同じ事象はどのようにとらえられているのか、参考館で学芸員として多数の民俗資料に触れた経験をもとに、国内外を問わず生活文化の具体的な事例をわかりやすく解説する。	人間の活動とその成果はすべて「文化」であり、人間の歴史そのものが「文化史」と言える。さらに、「文化」は特定の集団に属する人が共有する一定の特性で、行動規範や価値観を規定する。他者を理解するには「文化」の理解が不可欠である。「日本の文化」と、対極にある「異文化」を学ぶことで、将来に活かすグローバルな視点と寛容なコミュニケーション能力を養成する。			◎	◎		
フィールドワークからみる民俗文化	講義	2・3	2	フィールドワークの基本である「あるく・みる・きく」を通じて、私たちの生活文化や歴史文化について考える。民俗学が蓄積してきたフィールドワークから得た資料をもとに、私たちの暮らしのなかに累積された人々の営みや民俗について講義する。	私たちの日常を民俗学的視点から分析・考察できる。 民俗学的なフィールドワークの技法を習得する。			◎	◎		
民話と伝承	講義	2・3	2	本講義では、文字に頼らずに永年伝承されてきた豊かな文化情報の一つとして伝説や昔話を学ぶ。民話を通して、民話に籠められた先人の信仰・思考法・叡智などを学ぶ。調査や研究の方法にも言及する。民話の面白さを実感し、その奥深さを認識する。	1.口承文芸や民話の内容や分類について説明する。 2.民話の調査や研究の方法について具体的に説明する。 3.様々な民話について、本文を読んで、構造や表現を分析する。			◎	◎		
宗教民俗学	講義	2・3	2	年中行事に現れる民俗的神観念を説明し、生活と一体化した伝統的信仰の理解をはかる。また、日本の祭の構造と意味、神観念、祭祀組織について基本的事項を説明し、祭りを見る基本的視点の理解をはかる。さらに俗信や民間説話に潜在する民俗信仰を説明し、その意味を考える。これらにより、民俗信仰の歴史性や文化的価値を把握する。	1.民俗信仰の歴史性や文化的価値がわかる。 2.祭りや年中行事の構造と意味を知る。庶民生活を支えた伝統的倫理を理解する。 3.現代社会を相対化し、批評できるような民俗文化に関する基礎知識と判断力が身につく。			◎	◎		

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
民俗資料論	講義	2・3	2	民具などの有形民俗資料、地図、地名、地誌、石造物、絵画など、民俗学の研究に役立つ資料の特徴や入手法、調査・研究法とその実例を学ぶ。卒論執筆のほか、文化財関係の業務や博物館での調査・研究・活用も視野に入れた知識・技能の習得をはかる。	1.有形民俗資料の価値がわかり、調査・記録・報告ができる。 2.地図、地名、地誌、石造物、絵画などの資料を民俗学の調査・研究に利用できる。			◎	◎		
民俗学実習1	実習	2・3	1	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習1では、調査地や調査内容の選定、行程や日程の検討、調査地・調査内容に関する文献調査と研究、聞き取り・観察といった調査方法の検討や練習などの作業を行う。これらにより、事前の準備に関わる知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術がわかり、調査計画が立案できる。				◎	◎	
民俗学実習2	実習	2・3	1	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習2では、実習3の集中授業で行った現地調査の結果を確認し、先行研究と対照して価値を検討し、報告書にまとめるなどの作業を行う。これらにより、事前の準備に関わる知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	民俗調査の結果を整理し、報告書を執筆することができる。				◎	◎	
民俗学実習3	実習	2・3	1	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習3では、集中授業で現地調査を実施し、聞き取り、観察を行い、インタビュー、メモ、録音、撮影などの技法を練習する。実習中には随時ミーティングを行い、調査結果の共有と検討を行う。これらにより、調査の実施に関わる基本的な知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術が身につく、民俗調査が実施できる。				◎	◎	
民俗学実習4	実習	3	1	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な知識と調査技術を身につける。特に、実習4では、集中授業の現地調査に主体的に関り、聞き取り、観察を主導し、インタビュー、メモ、録音、撮影などの技法を実践する。実習中には随時ミーティングをサポートし、調査結果の共有と検討を行う。これらにより、調査の実施に関わる実践的な知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。また、調査を指導的な立場として全体をコーディネートする。	1.フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術が身につく、民俗調査が実施できる。 2.、調査を指導的な立場として全体をコーディネートできる。				◎	◎	
歴史民俗学演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、歴史民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究方法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎	
歴史民俗学演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎	
歴史民俗学演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、歴史民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究方法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎	
歴史民俗学演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				◎	◎	

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化学)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識) ②論理的思考力を身につけている(思考) ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
現代民俗学演習1	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、現代民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究方法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
現代民俗学演習2	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、現代民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
現代民俗学演習3	演習	3・4	2	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら、現代民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究方法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	
現代民俗学演習4	演習	3・4	2	春学期の進捗をふまえ、各自、現代民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講生も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	独自にテーマを設定し、その分野の研究結果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立て、卒業論文を執筆できるようにする。				○	○	